

スポーツイベント主催者のための スポーツボランティア活用・運営の フレームワーク ～国民スポーツ大会等を参考にして～

2025年6月19日 ver. 1.0

公益財団法人日本スポーツ協会 総合企画委員会 スポーツボランティア部会

公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO)は、人種、国籍、性別、障がいや疾病の有無などにかかわらず、誰もが生涯にわたってスポーツに親しめるよう、ライフステージに応じたその時々興味・関心に合わせて、多様な関わり方ができるように「する」「みる」「ささえる」ための環境整備を行っています。そのうち、「ささえる」においては、スポーツイベントにおけるスポーツボランティアの活動促進に関して、JSPOと公益財団法人笹川スポーツ財団、公益財団法人日本財団ボランティアセンターの三者連携により各種の支援活動を展開しています。

スポーツボランティアは、オリンピックやパラリンピック競技大会などの国際イベントから地域のスポーツ大会まで、スポーツイベントの成功に必要不可欠な存在になっており、国のスポーツ基本計画でもその重要性が記載されています。社会状況が様々に変化する中、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といったスポーツ参画人口の拡大が求められており、スポーツ競技団体、イベント主催者、地方自治体がスポーツボランティアの参画環境を整えていくことが必要とされています。

JSPOが主催する国民スポーツ大会(旧、国民体育大会)や日本スポーツマスターズも、これまで多くのボランティアに支えられて開催してまいりました。一方で、ボランティアの活用や運営のノウハウについては、先催県からの情報提供が中心であり、必ずしも十分なものではありませんでした。そのため、各種スポーツイベントにおいて、ボランティア運営のさらなる充実とその後の定着の一助になることを願い、国民スポーツ大会や日本スポーツマスターズにおける事例を中心に、大会開催前から当日、事後に至るまでの間に必要となるボランティア活用・運営に関する事項について、フレームワークとして明文化しました。

今後も適宜内容を充実してまいりますので、お気づきの点やご要望をお寄せくださいますと幸甚でございます。

スポーツイベント主催者のための スポーツボランティア活用・運営のフレームワーク【全体像】

事前・導入期

国民スポーツ大会・日本スポーツマスターズの概要

- ✓ 各大会の概要や特徴、果たすべき役割、課題

スポーツボランティア活動の推進に関する連携協定

①ボランティアとは

- ✓ ボランティアの定義・原則

②スポーツボランティアの概要

- ✓ スポーツボランティアの種類
- ✓ 現状や期待
- ✓ スポーツボランティア組織の先進事例

③導入計画立案

- ✓ 全体スケジュール

事前・準備期

④配置計画

- ✓ 考え方
(事前確認や配置の工夫、配慮すべき点)
- ✓ 第77回栃木国体の事例

⑤募集～決定

- ✓ 募集のポイント
- ✓ 大会後のボランティア活用に向けて
- ✓ 募集事例

⑥事前研修会

- ✓ 概要
- ✓ 研修で伝えること
- ✓ 運営方法

⑦各種マニュアル

- ✓ 構成内容
- ✓ 全体共通
- ✓ 各係
- ✓ 活動別

当日・事後

⑧活動当日

- ✓ アクセス方法の明示
- ✓ 集合時/解散時
- ✓ 運営のポイント
- ✓ 事業者(業務委託スタッフ)との連携

⑨事後

- ✓ ボランティアの定着化・組織化に向けた検討
 - ・振り返り
 - ・既存バンクの活用
 - ・新組織の設立の検討

その他

- ✓ 国スポ/日本スポーツマスターズ大会報告書(抜粋)
- ✓ リンク集
- ✓ スポーツボランティアからのFAQ

国民スポーツ大会、日本スポーツマスターズの概要

国民スポーツ大会

都道府県対抗、各都道府県持ち回り方式で毎年開催され、昭和36(1961)年からは、国のスポーツ振興法に定める重要行事の一つとして、日本スポーツ協会・文部科学省・開催地都道府県の三者共催で行われています。

※平成23(2011)年からは、スポーツ基本法第26条に定められています。

「国民体育大会」については、「スポーツ基本法の一部を改正する法律(平成30年法律第56号)」の施行[令和5(2023)年1月1日]に伴い、令和6(2024)年開催の第78回大会から「国民スポーツ大会」に名称変更(略称「国スポ(こくすぽ)」・英語表記「JAPAN GAMES」)しました。

国民スポーツ大会のボランティアには、各会場での受付や会場美化、式典運営補助等を行う運営ボランティア、大会の広報活動を行う広報ボランティア、聴覚障害等がある人への情報提供やコミュニケーション支援を行う情報支援ボランティアがあります(開催県によって名称が異なる)。そのなかで運営ボランティアは、公募で広く募集され、総合開・閉会式やその会場の近くに設置される広場や各競技会場等で活動しています。

なお、総合開・閉会式で活動する運営ボランティアは開催県が、各競技会場で活動する運営ボランティアは競技会を開催する会場地市町がそれぞれ募集しています。そのため、運営ボランティアの応募条件、募集方法及び研修等は、募集主体である開催県、会場地市町によって異なります。

日本スポーツマスターズ

日本スポーツマスターズは、スポーツ愛好者の中で競技志向の高いシニア世代(原則35歳以上※競技ごとに別に定める)を対象とした総合スポーツ大会です。

JSPPOが実現を目指す「だれでも、だれとでも。いつでも、いつまでも。」自分らしくスポーツを楽しめる社会(幅広い世代でスポーツが身近にある生涯を送ることができる社会)を体現する大会と言えます。

また、大会の開催地においては、スポーツの推進はもとより、地域の活性化や観光の促進剤として、さらには、地域におけるソーシャルキャピタル(社会関係資本)の醸成といったことにも寄与することが期待されています。

国民スポーツ大会、日本スポーツマスターズの概要

	国民スポーツ大会(本大会) <JAPAN GAMES>	日本スポーツマスターズ <JAPAN GAMES MASTERS>
主 催	日本スポーツ協会、開催地都道府県、文部科学省 ※各競技会は中央競技団体と会場地市町村	日本スポーツ協会、開催地都道府県、開催地都道府県スポーツ協会 ※各競技会は中央競技団体と会場地市町村
主 管		開催地都道府県競技団体
後援(予定)		スポーツ庁、日本オリンピック委員会、NHK、共同通信社
補助(予定)		JKA
企 業 協 賛	日本スポーツ協会+開催県	日本スポーツ協会+開催県
開催費負担	国、開催県、会場地市町村、日本スポーツ協会	日本スポーツ協会、開催県、会場地市町村、中央競技団体、 開催地都道府県競技団体
実行委員会	開催県+会場地市町村	開催県
開 催 時 期	9月中旬～10月中旬	毎年秋季(9～11月)
会 期	11日間 ※会期前は除く	5日間(開会式1日、競技会4日間) ※会期前は除く
開 催 地	都道府県持ち回り(東・中・西地区輪番)	都道府県持ち回り ※輪番等はなし
式 典	総合開会式・総合閉会式	開会式(前夜祭形式)
実 施 競 技	毎年実施競技:36競技(78～81回) 陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、バレーボール、体操、 バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、 自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、 ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、 スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、 ゴルフ、トライアスロン 隔年実施競技:2競技(78～81回) ボクシング、クレール射撃	実施競技:15競技 水泳、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、自転車競技、 ソフトテニス、軟式野球、柔道*、ソフトボール、バドミントン、弓道*、 空手道、ボウリング、ゴルフ *柔道と弓道は2028年大会からの導入に向けて調整中

国民スポーツ大会、日本スポーツマスターズの概要

	国民スポーツ大会(本大会) <JAPAN GAMES>	日本スポーツマスターズ <JAPAN GAMES MASTERS>
参 加 資 格	都道府県代表 成年種別:18歳以上 少年種別:15歳以上18歳未満	都道府県代表 ※予選等が無い場合もある 原則として35歳以上 ※競技ごとに定める
参 加 人 員	正式競技と特別競技の選手・監督、役員の合計で約23,000人が参加	選手・監督等合計で約8,000人が参加
参 加 申 込	都道府県スポーツ協会がとりまとめて申込	都道府県スポーツ協会は関与せず都道府県競技団体がとりまとめて申込
参 加 料	少年種別選手:3,000円、その他6,000円	選手、監督等:8,000円 ※商業施設使用競技は施設負担金を徴収
成 績・表 彰	正式競技は都道府県対抗 総合表彰と競技別表彰	競技別表彰
配 宿	開催県実行委員会	旅行代理店(協賛社)が斡旋
記 録	開催県実行委員会	開催県実行委員会

□ 共通する特徴

- ・ 特定の都道府県を開催県として一定の大会期間で複数競技の競技会を開催する総合スポーツ大会
- ・ 開催に際して、開催県が主催者の一員となり実行委員会を組織

□ 果たすべき役割（開催意義）

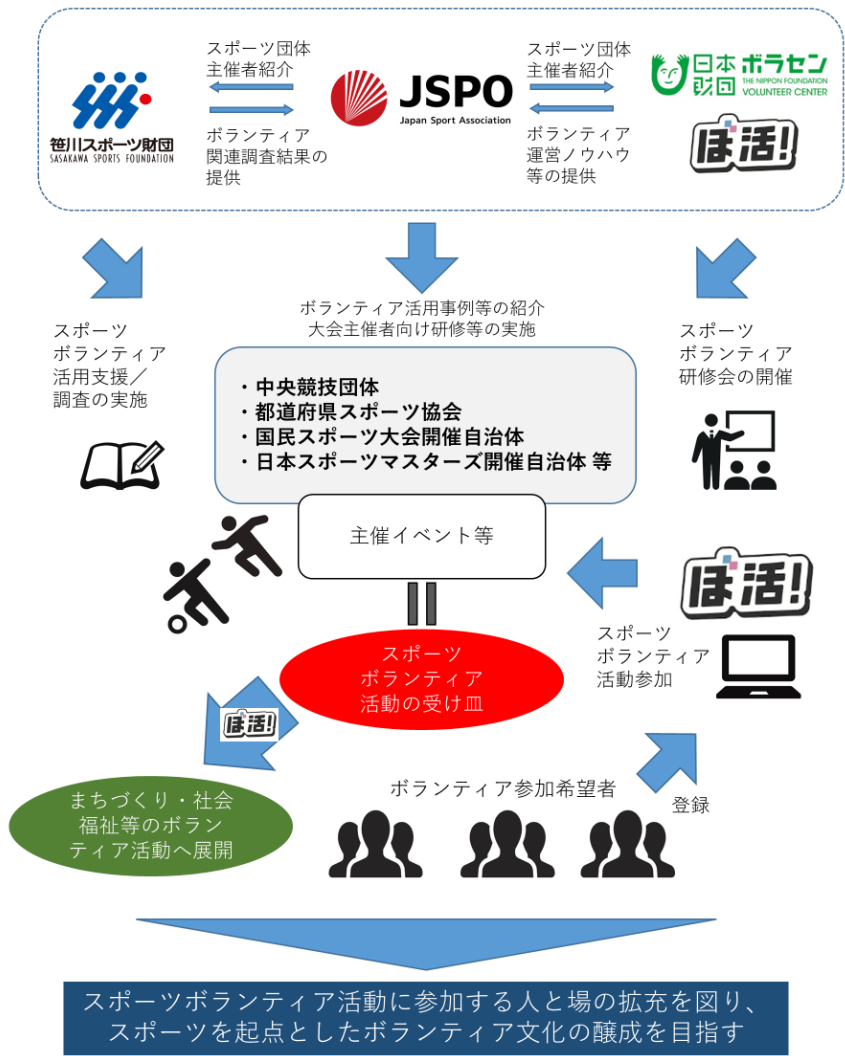
- ・ 大会の開催を通じた競技者育成
- ・ 大会の開催を契機とした開催県におけるスポーツ実施率の向上
- ・ 大会の開催を通じた開催県における地域社会の活性化や地域課題の解決
 <あらゆる人々のスポーツとの多様な関りの推進やソーシャルキャピタル（社会関係資本）の醸成等>

□ 課題

- ・ 開催県を中心とした費用や運営に対する負担が大きい ⇒ 特に人材不足が課題に
 <自治体職員や学校教員、生徒などの動員が多く、競技団体役員の高齢化による人員減少や運営ノウハウも低下>

スポーツボランティア活動の推進に関する連携協定

スポーツボランティア活動の推進に関する協定 概要



スポーツボランティア活動の推進に向け、三者連携協定を締結

日本スポーツ協会(JSPO)
 笹川スポーツ財団(SSF)
 日本財団ボランティアセンター(日本財団ボラセン)

三者がそれぞれ保有する資源を活用し、
 スポーツボランティア活動に参加する人と場の拡大・充実を図り、
 スポーツボランティア文化のさらなる発展を目指しています。

「第3期スポーツ基本計画」における本連携協定の掲載
 (10)スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」

【政策目標】

国民がスポーツに親しむ上で不可欠となる「ハード(場づくり)」「ソフト(環境の構築)」「人材」といった基盤を確保・強化するため、場づくりや環境の構築、スポーツに関わる人材の育成等を進める。

③スポーツに関わる人材の育成と活躍の場の確保
 d. 専門スタッフ、スポーツボランティア等

【具体的施策】

ア 国は、地方公共団体及びスポーツ団体等と連携し、JSPOと笹川スポーツ財団及び日本財団ボランティアセンターのスポーツボランティア活動の推進に関する連携協定のような取組を促進することにより、スポーツに関わる多様な人材の拡充を支援する。

① ボランティアとは

□ ボランティアの定義・原則

一般的な「ボランティア」の定義や特徴は下記のとおりです。自身の技能や時間を進んで提供し、社会に貢献する事です。特徴としては、自発性・自主性に基づく活動であること。きっかけは家族や知人に紹介されて活動することになったとしても、「やってみよう」と自身で判断した時点で、自分の意志に基づく自発的な活動ととらえることができるのです。

■ 「個人の自由意志に基づき、その技能や時間等を進んで提供し、社会に貢献すること」

■ 特徴：**自発性**（自由意志に基づく）
無償性（無給の活動）
公共性（公益的活動）
先駆性（発展的活動）
継続性

（文部省生涯学習審議会,1992）

②スポーツボランティアの概要

スポーツボランティアは、「地域におけるスポーツクラブやスポーツ団体において、報酬を目的としないで、クラブ・団体の運営や指導活動を日常的に支えたり、また、国際競技大会や地域スポーツ大会などにおいて、専門的能力や時間などを進んで提供し、大会の運営を支える人のこと」と定義されています(2000、文部省(現・文部科学省))。

□ スポーツボランティアの種類

スポーツボランティア活動は多岐にわたり、役割とその範囲から、大きく2つに分類することができます。不定期的な活動となる「イベントボランティア」、日常的に定期的に活動している「クラブ・団体ボランティア」。イベントボランティアには、さらに専門性を必要とする「専門ボランティア」と説明を受ければ誰でも活動できる「一般ボランティア」があります。クラブ・団体ボランティアでは、監督・コーチなどの「ボランティア指導者」のほか、チームやクラブの運営にかかわる「運営ボランティア」があります。

イベントボランティア (地域スポーツ大会、国際・全国スポーツ大会)

非日常的・不定期的活動



地域における市民マラソンや運動会、更には、国体や国際大会を支えるボランティアで、不定期に行われる活動です。専門的な知識や技術が必要な「専門ボランティア」と、特別な技術や知識を必要とせず誰もが参加できる「一般ボランティア」に分けられます。

専門ボランティア

審判、通訳、医療救護、大会役員、データ処理など

一般ボランティア

給水・給食、案内・受付、記録・掲示、交通整理、運搬・運転、ホストファミリーなど

クラブ・団体ボランティア (クラブ・スポーツ団体)

日常的・定期的活動



地域スポーツクラブやスポーツ団体におけるボランティアで、日常的に行われる活動といえます。監督やコーチ、アシスタントスタッフを務める「ボランティア指導者」と、クラブや団体の役員や幹事、送迎する運転手、道具を準備する父兄などの「運営ボランティア」があります。

ボランティア指導者

監督・コーチ、指導アシスタントなど

運営ボランティア

クラブ役員・幹事、世話係、運搬・運転、広報、データ処理、競技団体役員など

②スポーツボランティアの概要

□ スポーツボランティアの現状

1) 成人(18歳以上)のスポーツボランティア実施率(2024):5.4%

2010年の8.4%をピークに近年減少傾向

2) 成人のスポーツボランティア活動内容(2024)

「団体・クラブの運営や世話」「地域のスポーツイベントの運営や世話」「スポーツの指導」の実施率が高い

「スポーツの指導」「団体・クラブの運営や世話」「スポーツの審判」の実施回数が多い

⇒日常的なスポーツの現場でのボランティアの貢献

3) 成人のスポーツボランティア実施希望率(2024):9.7%

実施率の2倍近い希望率はスポーツボランティアの「潜在ニーズ」の高さ

1)～3)出典:笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2024)

4) スポーツボランティアの課題

高齢化を含む社会環境の変化や価値観の多様化による

① スポーツ指導や団体・クラブの運営など、日常的な「地域スポーツの担い手」の不足

② 関係者の「動員」が難しくなり、スポーツイベントの運営人材が確保できないリスク

②スポーツボランティアの概要

□ イベントボランティア：「動員ボランティア」と「公募ボランティア」

ラグビーワールドカップ2019や東京オリンピック・パラリンピック競技大会(2021)などの国際スポーツイベントでは、ボランティアは募集人数を大幅に上回る応募があるほどの人気で、それぞれの大会の運営に不可欠の存在となっています。過去の国体(国スポ)においても、毎年多くの公募ボランティアが活躍してきました。一方で、競技別の全国大会や都道府県大会など大多数のスポーツイベントの運営は、競技関係者、学校、行政などからの協力要請を受けて活動する「動員ボランティア」に頼らざるを得ない状況にあります。

動員ボランティアの特徴

- ・ 組織単位で動員されることが多く、既存の指揮系統を活かして効率的に動くことができる
- ・ 大会関係者との顔の見える関係により、ある程度の「無理なお願い」にも応えてくれる
- ・ 自発的な参加でない場合、モチベーションが低い人が多く、活動の質が高まらない

公募ボランティアの特徴

- ・ 自発的に参加しているため、モチベーションが高い
- ・ 経験豊富なボランティアが一定数おり、難易度の高い役割を任せることができる
- ・ 研修や問い合わせ対応など、個々のボランティアとの丁寧なコミュニケーションが求められる

②スポーツボランティアの概要

□ 公募ボランティアへの期待

動員ボランティア確保の課題

全国各地のスポーツ現場では、競技の普及や大会運営に携わる人材が高齢化し、後継者不足が不安視されている。また、部活動改革が進むことで、多くの教員を競技大会の運営に動員することが今後難しくなることも予想される。一方で、スポーツイベントのボランティアのニーズは高いことから、競技団体は、競技をささえる新たな人材発掘のために公募ボランティア活用を検討する時期にきている。競技未経験者がマラソン大会のボランティアをきっかけに陸上競技の審判資格をとり、その後陸上競技協会の役員まで務めた例もある。

公募ボランティア活用の利点

公募ボランティア活用のためには、募集から当日の活動までに個々のボランティアと丁寧なコミュニケーションをとる必要があり、関係者を通じた動員と比べて負担が大きい。これが多くの大会でボランティア公募が行われていない最大の理由と考えられるが、限られた活動内容について、少人数から公募を始めることはそれほど難しくないのではないだろうか。近隣にリーグクラブがある地域なら、ホームゲームで定期的にボランティア活動をしている「経験者」の力を借りることができる。

公募ボランティアは動員ボランティアと比べてモチベーションが高く、主体的に動くことが求められる現場で力を発揮するほか、ボランティア自身が楽しもうとする姿勢から、選手や来場者へのおもてなしの現場で大会のより良い雰囲気づくりに貢献してくれる。また、公募ボランティアのマネジメント経験は、動員ボランティアの活動満足度向上にも反映され、継続的な大会運営人材の確保につながることを期待できる。

②スポーツボランティアの概要

□ スポーツボランティア組織の先進事例

国際大会や総合スポーツ大会の公募ボランティアを中心に意欲ある人材を組織化し、地域のスポーツイベントで継続的に活動機会を提供する取り組みは、大規模スポーツイベントのレガシーのひとつといえます。

以下に紹介する組織は、行政主催のスポーツイベントやプロスポーツチームのホームゲームなどでの活躍をベースに、人材育成研修の企画・運営やスポーツ以外の多様なボランティアへの参加など、活動の幅を広げています。

1) うつくしまスポーツルーターズ



<https://www.rooters.jp/>

日本スポーツマスターズ2004福島大会で活動したボランティアが核となり翌年2005年に設立

2) まちだサポーターズ

<https://www.city.machida.tokyo.jp/bunka/sport/supporter/2018supporter.html>

スポーツ祭東京2013(第68回国民体育大会、第13回全国障害者スポーツ大会)の町田市開催競技の運営ボランティア公募をきっかけに2013年に発足



3) チームFUJISAWA2020



<https://team-fujisawa2020.jp/>

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の都市ボランティア(シティキャスト)として藤沢市で活動したボランティアを核に2021年に設立

③導入計画立案

□ 全体スケジュール

	内容	時期 【国スポ】	時期 【マスターズ】	開催県	開催 市町村
1	募集要件整理			○	
2	活動内容の洗い出し、人数試算		6か月前	○	○
3	募集要項作成		6か月前	○	○
4	ボランティア募集	2年前～4か月前	5か月前～3か月前	○	○
5	募集告知	—	—	○	○
6	募集(各種問い合わせ窓口)	—	—	○	
7	申込者情報整理		1か月前		○
8	活動内容・場所の決定		1か月前	○	○
9	決定通知連絡		1か月前		○
10	研修内容、講師の検討				
11	研修会の実施				
12	関連制作物(ウェア、マニュアル)作成				
13	(当日)ボランティア説明・対応		当日		○
14	(当日)ボランティア受付、リーダーからフィードバック			○	○
15	振り返り、事後アンケート		1週間後	○	○
16	御礼メール送付		2週間程度		○

※国スポの事例については、2025年滋賀国スポの事例を大会終了後に追記予定

④配置計画＜考え方＞

□ ボランティア配置に関わる大会関連情報の把握

開催期間、競技会場、選手・役員・スタッフの人数、観客見込数、来場者輸送計画、メディア対応、外国人対応(通訳)、セキュリティエリアの有無など

□ 参考情報の収集

過去同規模で開催した資料の確認(スタッフ数、ボランティア人数、役割や配置など)

□ 関係団体との共通理解・情報共有

対象(国スポ、マスターズの場合): 開催地市町村、都道府県競技団体、市区町村競技団体、スポンサー企業

内容: ボランティアに期待する役割、ボランティアと有償スタッフの違い、
ボランティア確保の方法(公募・動員とその内訳)、ボランティアへの丁寧な情報提供の重要性など

④配置計画＜考え方＞

□ 配置の工夫

- ・ 有償スタッフと無償のボランティアが同じ内容の活動をする場合、活動場所を分けるよう配慮する。
- ・ 公募のボランティアの配置は2名以上とし、トイレ休憩や相談などをできる状態が望ましい。
- ・ 計画段階でボランティアの活動内容や人数が確定できない場合、後で活動場所を変更できる「遊軍」的なボランティアを多めに配置しておく。
- ・ 複数日の活動では、新しい仲間づくりを意識し、班を再編成する。

□ 配慮すべき点

- ・ 職業、資格、特技や専門的な技能を持っている人を活かせる役割を作る。
技能を活かせない役割に配置しても、急に活躍の場ができる場合に備え、ボランティア募集時に職業や資格等を記入してもらい、名簿で確認できるよう準備しておく。
【想定される主な職業・資格・技能】
医師、看護師、介護職、教員(リーダーシップ)、語学(通訳)、書道(賞状名入れ)、PCスキル、手話など
- ・ ボランティア活動は適度に忙しいと満足度が高まる。忙しすぎても、逆に時間を持て余しても満足度が低くなる傾向がある。
- ・ メンバー同士の自己紹介や簡単な交流の機会を設けることで、チームとして一体感が生まれ、活動の質が高まる。
- ・ 時間に余裕があれば、競技関係者がボランティアに競技の特長を説明したり、簡単な体験の場を設けたりするなど、競技経験のないボランティアに競技への関心を持ってもらう取組みも有効である。

④配置計画 <第77回栃木国体での実例>

案内やおもてなしを担当する「総務企画グループ」と総合開会式の運営に携わる「競技式典グループ」、そして会場警備や来場者の対応をする「会場管理グループ」の3つに分かれており、全17係、555人(配置計画上)が配置されました。配置計画を検討する際、どここの団体と一緒に連携すべきか併せて確認しましょう。また、個人のスキルを活かした役割や開催県担当者が抱えている業務でボランティアに依頼できる内容があるか検討すると良いでしょう。

活動名				活動内容	人数	活動名				活動内容	人数
総務企画グループ	総務班	総務係		実施本部員・ボランティア控室の管理や会場の環境美化	10人	競技式典グループ	式典班	入退場係		ゲート内での動線確保等の補助	10人
	報道広報班	報道広報係	報道員の受付、資料の提供、報道員への案内や対応	28人	選手団係			受付担当	選手・役員受付時の実施本部員の補助	43人	
								控所担当	選出・役員の控えテントの管理		
	受付班	受付係	大会役員等の来場時の受付・案内・資料配布、ID紛失忘失者に対するID再発行	30人				誘導・整列担当	選手・役員の整列の補助、入場ゲートへのエスコート		
		総合案内所係	開・閉会式、各競技会、交通・観光等の案内・手話や要約筆記、車いす等の貸出や迷子・落とし物の対応	11人	出演者係			出演者の整列の補助、入場ゲートへのエスコート補助	11人		
										駅案内所係	開・閉会式会場や競技会場への交通案内、観光、食事、物産品等に関する各種情報の提供
	おもてなし班		総合案内チーム	来場案内、案内パンフ等の配布	28人	会場警備班	ID確認所係	式典入場口での手荷物検査に用いるビニール袋の配布、あらかじめ身に着けている金属類(スマートフォン、携帯電話、財布、時計等)をビニール袋に入れるよう案内	17人		
			入退場ゲート管理チーム	入場者の体温計測、入退場者数・入場者区分の管理			入場口係	リストバンド装着の補助、手荷物預かりの補助、ビン・カン・ペットボトルの飲料の移し替え、資料配布、観覧スタンドへの案内	63人		
		いちご一会広場係	会場管理・コロナ対策チーム	広場内の巡回・監視、雑踏整理、出店者指導、大型休憩テント内の消毒		来場者整理班		座席案内係	入場券等に表示されている座席番号への座席案内	30人	
			会場美化チーム	広場内の清掃・美化、大型休憩テント内等の清掃・拭き上げ、ゴミステーションの管理			会場案内係	各ID確認所や入退場口等の案内	19人		
			おもてなしチーム	募金グッズの販売、協賛物品等の配布		医事衛生班	救護係	傷病者の早期発見、体調不良者の誘導・付き添い、静養スペースでの対応	9人		
		都道府県応援団係	開閉会式を観覧する小中学生の誘導、応援グッズの配布、応援指示・補助、弁当配布・回収	60人	弁当係		冷蔵車の誘導、冷蔵車から降ろした弁当・お茶の搬入、弁当引換、弁当ガラ回収、片付け・撤収	162人			

④配置計画 <第77回栃木国体での実例>

活動名	活動内容	人数
受付案内係	大会関係者の受付・IDカードと資料の配布、観覧席・売店・トイレの場所等の会場案内	3人
休憩所・売店係	来場者へ無料ドリンクの提供、ゴミの回収・分別、休憩所の清掃・消毒	10人
弁当係	弁当引換、弁当ガラ回収	6人
環境美化係	会場内ゴミ箱のゴミ回収、分別、会場内トイレの巡回・トイレトーパーの確認	8人
応援観戦係	児童生徒のシャトルバスの乗降案内、観戦・活動場所への誘導	4人
会場係	一般観覧者が滞留しないよう案内・整理・誘導	10人
	会場内の仮設物(テント・看板等)・装飾物(のぼり旗・横断幕等)の安全点検	
	関係者以外立入禁止区域でIDカードのチェック	
駐車場係	駐車場内の車の誘導	8～9人
輸送係	一般観覧者への乗降案内、競技会場への誘導、乗車列の整理・誘導	6人
消防係	喫煙所・売店の火気の確認・安全点検	2人
衛生係	一般観覧者のマスク着用の確認、検温・消毒の案内	5人

⑤募集～決定

国スポの場合、開催2年前に県実行委員会の広報・県民運動専門委員会で運営ボランティア募集要項を決定しています。ボランティア募集は開催県が窓口となりますが、ボランティアの管理・運営は、活動場所に応じて、開催県と競技会場となる開催市町がそれぞれ行います。

マスターズの場合、開催年度に県実行委員会が運営ボランティア募集要項を作成しています。競技ごとに活動希望調査を実施し、活動人数、活動内容を決定します。

□ 募集のポイント

- ・ 開催年の4～5月頃に再度活動意思を確認することで、欠席者数を抑えることができる。
- ・ 県や会場地市町が協力し、互いの募集情報を共有することが重要である。
- ・ JリーグやBリーグなど、トップチームのホームゲームで活躍するボランティアに協力を求める。
- ・ スポーツ以外の分野で活動するボランティアバンクやボランティア組織にも協力を求める。
- ・ 国スポは地元愛や来訪者へのおもてなしの気持ちで参加するボランティアが少なくない。
- ・ 「ボランティアツーリズム」のコンテンツとして国スポに期待する経験豊富な県外ボランティアもいる。
- ・ 当日の欠席者が一定数いることを想定し、活動に支障がないよう多めにボランティアを確保しておく。

□ 大会後のボランティア活用に備えて

- ・ 大会後に県内のスポーツイベント等でボランティア活動を継続する意思があるか、個人情報の二次利用の許諾を含めてあらかじめ確認しておく。

⑤募集～決定 <募集事例>

	国民スポーツ大会(滋賀大会)	日本スポーツマスターズ
応募条件	活動は1日単位。 ※活動日、活動場所については、事後希望調査を実施。 ※開催年度4月1日時点で12歳以上で申込時点で18歳未満の人は、保護者の同意が必要。	活動は1日単位。 ※活動日、活動場所については、事後希望調査を実施。 ※開催年度4月1日時点で15歳以上の人は、保護者の同意が必要。
申込方法	HPのフォームからの申込(郵送・FAX や窓口への持参も可) ※個人申込、団体申込対応	ウェブによる申込(メール、FAXも可)
募集人数	・国スポ開・閉会式 1,700人 ・国スポ競技会 5,700人 ・障スポ開・閉会式、競技会 3,500人 ・手話、筆談、要約筆記(手書き)550人 ・要約筆記(パソコン)50人	延べ300人、1日あたり30人程度 ※団体申込も可
活動内容	・運営ボランティア(開会式・閉会式、競技会場) ・会場美化(会場清掃、ごみ箱の管理、花の管理) ・会場整理(観客誘導、座席案内、駐車場案内) ・案内・受付(来場者受付、会場案内、資料配布) ・会場サービス(弁当配付、ドリンクサービス、車椅子貸出) ・式典運営補助(開・閉会式の式典補助) ・医療救護(救護所での救護活動の補助) ・手話・要約筆記ボランティア ・手話、筆談、要約筆記(手書き)、要約筆記(パソコン) ※申込区分に応じて、リハーサル大会への参加も協力依頼	受付 案内・誘導 設営補助 清掃 記録・掲示 アナウンス おもてなし 記録写真撮影
申込期間	開催2年前～募集人数に達するまで(実施年5月頃まで)	当該年度4月～5月末頃まで
決定通知	活動日と係を郵送(実施年7月)、活動内容の詳細を通知(実施年9月)	当該年度7月頃
報酬・交通費等	活動、研修等の報酬は無償、交通費は自己負担とし、ユニフォーム及び昼食等は、必要に応じて支給。 ※実行委員会にて「傷害保険」および「賠償責任保険」に加入	活動、研修等の報酬は無償、交通費は自己負担とし、ユニフォーム及び昼食等は、必要に応じて支給。 ※実行委員会にて「ボランティアか活動保険」に加入

⑥事前研修会

□ 研修会の概要

- ・実施回数 1回(開催地での対面実施が望ましい)
- ・実施日時 参加者の都合を考慮し、平日昼・平日夜・週末にそれぞれ開催し、参加できなかった人向けの録画視聴(オンライン参加)も検討する。
- ・所要時間 2時間程度
- ・主な内容 大会の概要、ボランティアの心構え、ボランティアの役割に加えて、主催者のボランティアに対する想いを伝える機会とする。
⇒「ボランティアに手伝ってもらおう」ではなく、「大会を共に作る一員」としての期待
研修への参加が、参加者の新たな「学び」や「気づき」になるよう意識する。

□ 研修で伝えること

- ・選手や観客らが開催地を訪問してくれたことへの感謝(地元として歓迎)
- ・ボランティア自身が楽しむこと(人との出会い、非日常の体験、新たな経験や学びなど)
- ・活動内容の説明(説明会時点での最新情報)
- ・声のかけ方、活動中の態度、困ったときの対応方法(Q&A作成、相談先の明示など)
- ・開催地の特徴(名産品、郷土料理、地理、観光名所など)⇒住民がその土地の良さを再認識する機会に
- ・ボランティアは「お客様ではない」こと:主催者に理不尽な要求をし、現場の和を乱すボランティアは「大会を共に作る一員」として不適切であり、活動を外れてもらうこともある

□ 運営方法

- ・主催者が全て説明することが望ましいが、外部委託する方法もある。
- ・地域のボランティア団体、都道府県スポーツ協会、都道府県障害者スポーツ協会、社会福祉協議会、民間企業、大学、観光協会、商工会議所など

⑦各種マニュアル

□ ボランティアのマニュアル

- ・ボランティアの活動をマネジメント、ボランティア自身が当日安全にスムーズに活動するためにもマニュアルの作成は重要である。

□ マニュアルの構成内容（事例）

【ボランティア活動を楽しむ過ごすために】（記入例）

- ・ボランティア活動の心構え。一緒に活動する仲間と協力しながら、楽しく活動することなど。
- ・おもてなしの心、ワンポイントアドバイス。
元気に挨拶！笑顔がいちばん！
- ・選手や応援者、観客から分からない質問があった場合は
あいまいに回答せずスタッフに引き継ぐことなど。

【安全第一】（記入例）

- ・活動中に気分が悪くなった場合など、体調に異変を感じたら
無理をせず休むこと・申し出ること。
- ・怪我や熱中症等に気を付けること。

【大会開催概要】

- ・ボランティアが大会全体を理解できる内容を掲載。

【大会スケジュール】

- ・ボランティア活動の流れが理解できる内容を掲載。

【ボランティア活動一覧】

- ・ボランティア各自の活動が理解できる内容を掲載。

【活動別マニュアル】

- ・ボランティア部署別活動概要マニュアルの作成。

【大会開催の決定及びその基準】

- ・大会中止に関する主催者権限。
- ・大会当日、自然災害などにより競技環境の悪化・安全確保することが
認められない場合の、ボランティアへの周知方法。
- ・大会中止時の、連絡並びに周知方法。各交通機関、最寄り駅等への
ボランティア配置。
- ・大会開催前の中止、大会開催中の中止。

【災害発生の対策】

- ・地震、津波等が発生時の対策。
- ・避難誘導方法、避難経路。ボランティアの避難対策。視覚で分かる図等。
- ・避難場所一覧表。視覚で分かる図等。

【負傷者並びに重篤者発生時の対応】

- ・救急病院の一覧表。
- ・医療機関との事前調整内容。負傷者並びに重篤者発見の連絡手順。

【変更点&注意点】

- ・よくある質問。活動中の服装等。
- ・豆知識。

【開催前・開催当日の連絡先】

- ・開催前に連絡する場合の連絡先・担当者を明記
- ・開催当日に連絡が取れる連絡先・担当者を明記

⑦各種マニュアル

ロ ボランティアの全体共通マニュアル（事例）国民スポーツ大会（参考）

◆ボランティアの基本行動◆

1 心構え

- (1) 大会開催期間中は、選手・監督等の大会関係者をはじめ全国から一般来場者、視察員、報道員が那須塩原市を訪れます。那須塩原市での滞在がよい思い出となるように、一人ひとりが主催者の意識を持ち、『おもてなしの心』を持って対応してください。
- (2) 笑顔で元気に「おはようございます」、「お疲れ様です」、「頑張ってください」等の挨拶をしましょう。障がい者や高齢者等介助が必要と思われる方には、こちらから声をかけ相手のニーズにあった対応を心がけてください。
- (3) 必要以上に選手に接する等の紛らわしい行為をして、周囲から誤解を受けることのないよう、運営者としての自覚を持って行動してください。
- (4) 活動の内容は、係の競技会係員（市職員）の指示に従ってください。判断が必要な場合は、必ず係内の班長（市職員）、係長（市職員）もしくは競技会係員（市職員）に相談してください。
- (5) まずは、自分の健康管理が重要です。活動当日まで健康づくりに心掛けるとともに、当日の水分・塩分補給など自己管理をお願いします。

2 活動当日の流れ

- (1) 集合
 - ・活動開始時間までに受付案内所に集合してください。
 - 集合時刻より早く来ても、職員及びバスの対応ができませんので、活動開始時刻を確認し集合してください。
 - ・集合場所で、受付案内係員に「〇〇係ボランティアの〇〇です」とお名前をお伝えください。
 - ・受付後、受付案内係員の指示に従い待機してください。
 - ・各活動場所の係員（市職員）が皆さんを迎えに来ますので、係員の指示に従ってください。各活動場所にて、内容の説明があります。
 - ・担当係長より弁当引換券を受け取りカードケースの中に入れ、なくさないように保管してください。
- (2) 活動
 - ・活動にあたっては、係員（市職員）の指示に従ってください。
 - ・活動中の様子を写真にて、冊子やホームページ、SNSに掲載することがありますので、あらかじめご了承ください。
 - ・活動中、体調に異変を感じた際は、係員（市職員）に相談してください。
- (3) 活動終了
 - ・係員（市職員）の指示により、活動が終了となります。
 - ・帽子、ベスト、IDカードを返却する必要はありません。

3 服装・持ち物など

- (1) 指定の服飾（帽子・ベスト）、IDカードを必ず着用してください。
- (2) 来場者に不快感を与えない、動きやすい服装で活動してください。
 上 着：華美でないシャツ・ポロシャツ・ジャンパー等
 スポン：綿パン、ジャージ等（ハーフパンツ、ジーンズ、スカートは不可）
 ※ゴルフ競技はジャージ着用をお控えください。
 靴：運動靴、スニーカー（サンダル、パンプス、スリッパは不可）
 雨 具：天候状況により各自で合羽を用意願います。（傘は不可）
- (3) 貴重品は各自で管理することとし、収納するポディバック・ウエストポーチなどは使用可とします。
- (4) 熱中症予防のため、各自、飲み物等を携帯し、水分補給を行ってください。

4 休憩・弁当

- (1) 休憩は係員（市職員）の指示に従ってください。休憩時は配布された帽子とIDカードを外してください。
- (2) 昼食は弁当とお茶を実行委員会で用意します。係員（市職員）の指示により屋食休憩をとり、弁当引換所で受け取ってください。なお、食中毒防止のため、弁当の持ち帰りはできません。
- (3) 弁当ガラは、弁当引換所へ返却してください。（ゴミ箱への破棄は不可）
- (4) 喫煙は、所定の場所で行ってください。

5 緊急時の対応

- (1) 緊急かつ臨機応変な対応が求められる下記の事項については、近くの係員（市職員）に報告してください。
 【遺失物・拾得物、迷子、傷病者、火災など災害、施設トラブル、交通事故など】
- (2) 大会の運営を円滑に遂行するため、担当活動外の応援にもご協力ください。

6 その他注意点

- (1) 新型コロナウイルスの対応 ※国体開催における大切な事項です。
 - ・活動中は常時マスクを着用してください。
 - ・活動14日前よりスマートフォンアプリ「GLOBAL SAFETY」で体調管理を行ってください。アプリの利用が難しい場合は、体調管理チェックシートを記入してください。複数日にわたり複数の会場で活動する場合は、会場ごとに体調管理チェックシートを提出してください。複数日にわたり同一会場で活動する場合は、2日目以降は日々のチェックシートを提出してください。
 - ・本日配布した袋の中に、抗原検査キットが入っています。大会を通じて第一日目の活動日の朝1回のみチェックしてください。陽性反応が出た場合は活動できません。（複数日にわたり活動していただく場合も1回です。）
- (2) ボランティア活動従事者は傷害保険に加入していますので、万が一事故にあわれた場合は、係員（市職員）を通じ国体推進課までご連絡ください。

第77回国民体育大会
 那須塩原市運営ボランティア決起大会
 【ボランティアの手引き】

⑦各種マニュアル

□ ボランティアの各係のマニュアル（事例） 国民スポーツ大会（参考）

◆各係の活動について◆

活動の前に担当係長（市職員）から業務説明を行います。分からないことは随時確認しながら、説明に従って活動してください。また、その他の業務においても、必要に応じて運営ボランティアの皆様にお手伝いをお願いすることもあります。その際は、市職員等の指示に従って活動していただきますようお願いいたします。

1 総合案内係

- JR那須塩原駅にて、開催競技及び競技会場への案内を行います。また、必要に応じて、宿泊、観光、物産等の案内も行います。
- 総合案内所机上へパンフレット等の配布物の配置及び補充を行います。
- 係員（市職員）の指示により総合案内所の設置又は、撤去を行ってください。
- 案内所周辺にゴミ等がないように、美化に努めてください。
- 案内所での対応が那須塩原市の印象を決めるポイントにもなりますので、できるときと、親切で気持ちの良い対応をお願いします。



2 輸送係

- 一般観覧者へシャトルバス乗り場の案内を行ってください。
- 一般観覧者のシャトルバス乗車の列の整理及び誘導を行います。
- シャトルバス乗車前に手指の消毒の案内を行います。
- シャトルバスより降車した一般観覧者を競技会場（検温所）へ誘導してください。



3 応援観戦係

- 国体・障スポにエールを！！～那須塩原っ子プロジェクトへの活動の一環として、国内最大のスポーツの祭典に参加する児童生徒の観戦を支援します。
- シャトルバス乗降所またはバス駐車場にて、到着した学校を出迎え、安全面に配慮しながら、観戦場所に誘導します。
- 児童生徒の観戦場所を確保し、楽しく観戦できるようにします。
- 観戦終了後、忘れ物や落とし物を確認します。観戦終了した児童生徒を、帰りのバス乗車まで見届け見送ります。



4 受付案内係

- 大会関係者（役員、視察員、報道員等）の受付を行い、IDカードと資料袋を渡してください。
- 来場者に会場案内（観覧席、売店、トイレの場所等）を行います。
- 拾得物・遺失物・迷子の届けがあった場合には、係員（市職員）に引き継いでください。
- 競技会場を訪れた観客や選手等の質問に応じて、競技会場内や交通機関、観光の案内をしてください。必要に応じてパンフレット等を配布してください。
- 案内所での対応が那須塩原市の印象を決めるポイントにもなりますので、できるときと、親切で気持ちの良い対応をお願いします。



第77回国民体育大会
那須塩原市運営ボランティア決起大会
【ボランティアの手引き】

⑦各種マニュアル

ロ ボランティアの活動別マニュアル（事例）

（ウ）競技式典班 競技会場係

【集合場所】2階観客席出入口付近

【従事場所】1階競技会場（メイン・サブアリーナ内以外）、2階観客席（別紙参照）

業務一覧

- 競技会場の巡回警備及び誘導
- 撮影規制の監視
- OID チェック場所の管理
- 観客者等の整理誘導
- 障がい者等への対応

配置箇所	主な業務内容	競技会係員	ボランティア	
			9月18日	9月19日
1階 競技会場内	メインアリーナ・サブアリーナ内以外の巡回警備	3名		
2階 観客席（自由席）	一般観客者誘導・巡回	2名	5名	2名
2階 各指定席入場券チェック	都道府県指定席・地元応援席・立見席の入場券チェック	2名	14名	14名
その他（フリー）	不審者や不審物がないか巡回 競技会場敷地内の巡回 ボランティアのフォロー	班長 係長		

時間	担当	業務内容
集合後	係長・係員	1 係ミーティングの実施
9:30	係長	2 ボランティアの受付・受入
	係員	3 開場前巡回 【確認事項】 (1) 動線確認 一般観客者用出入口と、大会関係者用出入口（選手監督、競技役員など）は別々であるため、その動線を確認する。 ※1階入口→大会関係者、2階入口→一般 (2) 設置確認【随時】 ア 机、椅子、看板、会場内の表示物等に破損等がないかを確認する。 イ 会場内にゴミが落ちていないか、観覧席が汚れていないか確認し、ゴミ拾いなどの対処をすること。 ウ 会場内に落し物があった場合は、受付（1階・2階どちらでも可）に届ける。 エ 異常が見つかった場合は、係長の指示を受けながら、総務係及び競技担当者と連携し、臨機応変に対応する。
開場中	係員	1 観覧席の管理 (1) 一般観客者の誘導・案内

ア 入口、出口付近で一般観客者が滞留しないように声掛けをする。

例「立ち止まらず、指定された席でご観覧をお願いします。」

「こちらが出口です。気をつけてお帰りください。」

イ 通路に一般観客者が立ち見している場合、着席を促し、動線を確保する。

例「こちらは通路となりますので、座席にて観覧をお願いします。」

「立見席以外の方は、指定された座席へご移動ください。」

ウ 都道府県指定席や地元応援席の入場券が必要なエリアに、一般観客者が入らないように管理をする。

【各入場券の紙の色は下記のとおりです。（A4 サイズ）】

※都道府県指定席・・・ピンク

※地元応援席・・・黄色

住所

氏名

<< 競技会入場券 >>

いちご一会とちご団体
大会本部事務局

7218001
2

都道府県指定席

競技会 会場（新体操）

会場名 熊本県立県民体育館

日時 令和4年9月18日（日）

開場時間 12:00

閉場時間 12:00

感染症予防対策に係る注意事項

- 感染防止対策、会場内（アリーナ）を案内する方への配慮をお願いします。
- 当日は会場内に検温と手指消毒のチェックを実施し、体調不良の場合は会場を退場していただきます。
- 氏名及び足跡等の写真等、実行委員会事務局に送付させていただきます。
- 入場時には、動線誘導と巡回「サーモグラフィー」による検温を必ず受けてください。
- なお、入場時の検温にて発熱等の症状が認められる場合は検温にご協力いただけない場合があります。入場をお断りします。
- 会場内では、原則としてマスクを着用してください。
- 咳嗽（せき）や発熱等の症状防止のため、大声を叫ぶ等の配慮をお願いします。
- 緊急時（地震等）の発生時（サイレン）は、速に避難してください。

お問い合わせ先

いちご一会とちご団体
大会本部事務局

〒721-8001
熊本県上益田市赤松1丁目1番1号
TEL: 0967-21-8001
【平日9時00分～17時15分】

いちご一会とちご団体 競技会入場券

競技会 会場（新体操）

氏名

開場時間 12:00

閉場時間 12:00

係員 (2) 練習及び競技進行の妨げとなるような行為、不審者や不審物を発見した場合は、速やかに係長に連絡し複数で対応する。

係員 (3) 体調不良者を見かけたら、競技会場係長から救護係に無線機で連絡をしてから、救護室もしくは静養スペース（屋外テント）へ案内をする。

2 撮影規制

新体操は原則撮影禁止であり、撮影を見かけた場合は、選手の人権と大会の権利を保護するため、撮影禁止であることを説明して、撮影をやめてもらう。注意しても続くようであれば警備員に対応を引き継ぐ。

例「本大会は、撮影禁止です。ご理解ご協力をお願いします。」

※盗撮が疑われる行為を発見した場合は、直接注意せず、警備員（委託）へ対応を依頼する。

※警備員が対応した後、競技会場係に報告されるため、競技式典班長を通して競技会場部長、競技団体等と協議して対処方法を決める。（通報するかどうかなど。）

3 会場内外の案内

トイレ、赤ちゃんの駅等の位置を案内する。（会場図参照）

※不明な事項については、無線などで各係等に問い合わせを行う。

4 障がい者等への対応

(1) 障がい者等の案内・誘導

ア 1階の受付案内係から無線機で競技会場係へ連絡があった場合、エレベーター前に待機し、2階受付まで案内する。

イ 受付終了後、福祉席へ案内を行う。

※福祉席に案内した後、「お帰りの際は、お近くの係員へお声掛けください。」など声掛けを行う。

イ 退館したい等の申し出があった場合は、エレベーターを利用して1階まで案内する。1階にいる競技会場係は出口まで案内する。

※エレベーターまで案内する前に、1階競技会場係に無線機で連絡する。

例「エレベーターに車いすの方が乗るため、出口まで案内をお願いします。」

競技終了時	係員	1 競技終了後の巡回、ごみ拾い 開場前同様、施設・設備等の以上、落し物、ごみ等がないか巡回・確認する。
	係長	2 競技会場係ボランティアの解散 ※日程終了前に解散の日もあり。
	係長・係員	3 片付け・係ミーティング・係員の解散

⑧活動当日

□ アクセス方法の明示

- ・ 集合場所の詳細地図、駐車場や公共交通の時間、ボランティアが乗れる大会バス、交通規制の状況など初めての人でも迷わずに集合場所にたどり着けるよう、できる限り丁寧に伝える。

□ 集合時

- ・ 受付
- ・ 事務連絡

【持ち物、一日の流れ、会場全体の位置(問い合わせ窓口、トイレや喫煙場所、非常口や避難場所)、スタッフ識別方法】

- ・ インフォメーション(天気、来場者数や混在予想時間、VIP対応、セキュリティーエリア、メディア情報)
- ・ 主催者からメッセージ
(「ありがとう」の挨拶、一緒に大会を盛り上げる仲間、ボランティアの笑顔が大会の印象となるなど)
- ・ 注意事項(活動中の写真NG、選手にサインを求めない、ADカードや指定ウェアの着用など)
- ・ グループ分け、自己紹介など
- ・ 活動前の詳細説明【責任者の待機場所・連絡先(携帯または無線)の共有、連絡系統】

□ 解散時

- ・ メンバーで集まり、1人ずつ感想などをもらう
(自身の振り返りの機会となり、またグループの改善点を把握できる)
- ・ 主催者から、必ずボランティアに対して「お礼の言葉」を述べる(グループのリーダーからでもよい)

⑧活動当日

□ 運営のポイント

- ボランティアが「運営の一員」になるためには権限を移譲し、自発的に行動できる状態をつくる必要がある。
- 状況は常に変わり、現場で適切に対応できることがやりがい(＝笑顔＝良い雰囲気)につながる。
- 判断基準を明確に伝え、責任者に相談しやすい環境(傾聴の姿勢)を整える。
例)来場人数により受付窓口や誘導位置を変える、休憩シフトを調整など。
- 事前説明会(または当日の集合時)でまとめ役を担えそうな方を複数見つけておくで雰囲気をつくりやすい。

□ 事業者(業務委託スタッフ)との連携

- 受託事業内容に、ボランティアへの適切な指示とボランティアが担う役割の管理など明記することで、不適切な対応の予防につながる。

⑨事後

ボランティアの定着化・組織化に向けた検討

□ 振り返り

ボランティア運営の検証やノウハウの蓄積のため、活動後に改善点や対応した内容などを把握しすることで、課題を把握することができる。

□ 既存バンクの活用

既存のボランティアバンクへの登録を促進することで継続的なボランティア活動機会の提供につながる。募集計画の段階から、スポーツ推進課、スポーツ協会、社会福祉協議会、プロスポーツチーム、地域のボランティア団体などと連携し、参加者の個人情報共有に役立てる。また、これらの団体が行うボランティア活動や研修会への参加を促すことで、ボランティア個人、そして既存団体の会員獲得など相乗効果が期待できる。主催者だけでプログラムを完結せず、既存の団体との連携が大切である。

□ 新組織の設立の検討

組織委員会や行政が主導で新組織を立ち上げるよりも、既存のスポーツ協会、社会福祉協議会や地域のボランティア団体などと協働し、新たなボランティア組織を立ち上げる方法もある。

SAGA2024国スポ 佐賀市大会報告書(抜粋)

SAGA
2024
国スポ
佐賀市大会

ボランティア



のべ400人以上のボランティアの皆さんに、競技会の運営を支えていただきました。

● 広報・市民運動ボランティア
イベントや情報発信、応援グッズの配布などで大会を盛り上げました。



競技会場で応援グッズやチラシを配布



仲間と一緒にがんばるぞ!



ケーブルテレビの番組に出演し、ボランティア募集をPR



イベントでは来場者に体験を通じて大会を周知

● 競技会運営ボランティア
競技会場で弁当・ドリンクの配布などを行い、運営をサポートしました。



関係者に弁当を配布。空箱の回収やごみの分別など、たくさんの業務をお願いしました



選手などにドリンクを配布。選手との会話が弾みます



笑顔が一番のおもてなし



SAGA 2024

新聞・雑誌

SAGA2024 国スポ

SAGA2024 佐賀市大会

SAGA2024国スポ・全障スポ 佐賀市大会報告書
(SAGA2024佐賀市実行委員会)

全体像へもどる

28

大会を支えたボランティア・補助委員

長崎大会ではボランティアを公募し、競技会運営の一端を担ったほか、心のこもった「おもてなし」で大会を大いに盛り上げました。



大会を振り返って

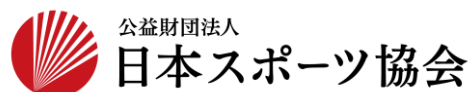
資料

実行委員会

競技要項

記録

関係団体



ボランティア団体



関連資料

- 日本スポーツ協会 [トップページ](https://www.japan-sports.or.jp/volunteer/tabid1256.html)>スポーツボランティア
<https://www.japan-sports.or.jp/volunteer/tabid1256.html>
[スポーツボランティア活用モデル事業報告書](#)
(令和 5 年 3 月 22 日 公益財団法人日本スポーツ協会)
[競技大会を支える人材とその活用状況に関する調査 報告書](#)
(2019 年 10 月 公益財団法人日本スポーツ協会 公益財団法人笹川スポーツ財団)
- 国民スポーツ大会 過去大会の概要
<https://www.japan-sports.or.jp/kokutai/tabid183.html>
- 日本スポーツマスターズ 過去大会の概要
<https://www.japan-sports.or.jp/masters/tabid196.html>

スポーツボランティアからのFAQ

Q ボランティアの活動は誰にでもできますか？

A 誰でも活動できます。ただし、16歳以上や18歳以上などの年齢制限を設けている場合がありますので確認してください。

Q 研修は予定されていますか？

A 国民スポーツ大会においては、事前研修や会場別研修など予定しています。開催県によってはオンライン開催もあります。

Q 服装はどのようなものになりますか？

A 大会ごとに決められた服装の指定があるので、それに従ってください。暑さ・寒さ対策は個人で準備をお願いします。

Q 交通費や食事の支給はありますか？

A 大会ごとに異なりますが、一般的にお昼をまたぐ活動ではお弁当支給のある場合が多く、交通費は大会ごとに異なります。

Q 定員を超えた場合はどうやって選ばれますか？

A 募集要項に、先着順と明記されていなければ、後日抽選を実施する場合があります。

Q 資格などは必要ですか？

A 特に必要はありません。ただし、資格や過去のボランティア経験の有無などは参考にする場合があります。

Q 障がいがあっても応募できますか？

A 応募は可能です。過去にも多くの方が活動されています。

Q キャンセルすることはできますか？

A キャンセルは可能です。わかった段階でできるだけ早く連絡をお願いします。

Q 友達と一緒に場所で活動できますか？

A グループでの募集を受付ている場合があります。募集要項を確認して申し込んでください。

Q 保険は各自で加入したほうが良いですか？

A 主催者がボランティアも対象になる保険に加入している場合が多いです。
主催者に確認の上、心配であれば個人での加入もお勧めします。



【アンケートへのご協力をお願い】

本フレームワークについて、皆様の声をお聞かせください。
頂戴したご意見は、フレームワークの更新に活用させていただきます。

<https://forms.office.com/r/zr0snBjcTr>

スポーツイベント主催者のためのスポーツボランティア活用・運営のフレームワーク
～国民スポーツ大会等を参考にして～

公益財団法人日本スポーツ協会 総合企画委員会 スポーツボランティア部会

部会長 工藤 保子（大東文化大学）

部会員 斎藤 道子（NPO法人うつくしまスポーツルーターズ）

澁谷 茂樹（公益財団法人笹川スポーツ財団）

但野 秀信（公益財団法人日本財団ボランティアセンター）

田中 正男（NPO法人湘南マリノアオーガニゼーション）

発行 公益財団法人日本スポーツ協会
スポーツプロモーション部プロモーション課 shougai@japan-sports.or.jp

2025年6月19日 ver. 1.0